

作家&作品紹介

松本寛庸は山鹿市出身の若手作家。「アール・ブリュット・ジャポネ」展で注目を集め、当館収蔵作品も様々なメディアで紹介されています。作品画像は、本年度の当館年間スケジュールの表紙にも使用しています。

naonao's 森川尚美の《naomi-chan (ナオミちゃん)》のドレスはどれひとつとして同じものはありません。しかも、すべて違う柄がプリントされています。おしゃれですね！

ミヤザキケンスケは佐賀出身です。《熊本のカオ》はびぶれす広場で公開制作された作品です。通りすがりの市民に「熊本といえど？」と声をかけて、その返答（夏目漱石、大江天主堂）をその場で絵に描きました。

トーチカの《PIKA PIKA IN KUMAMOTO》は、河原町、熊本駅、熊本城、当館で市民とともに撮影した作品。3.11と同年に制作された作品のため、太陽光を多く用いている特徴があります。

石田澄男の作品群は、握力のほとんどを失った手で一筆ずつ時間をかけて制作されたもの。熊本の生活を優しく彩る、豊かな四季の恵みの野菜や果物が描かれます。

今田淳子の作品は、素材はテラコッタから綿、溶接から手縫いによる作業まで様々な工程を経て制作されます。この作品群のインスピレーションの源は愛娘との生活、家族との時間です。

藤本高廣 ZUBE は、熊本中心地の店舗の装飾としても作品が多く存在する隠れた人気作家。鉄などの廃材を使用して、ユーモラスな動物を生み出します。

竹田康宏は熊本出身の作家で、音楽のリズム、植物のかたちを理想として作品を制作しています。《潮騒の神話》も、実際に座って、作品が奏でるかすかな音を体験するものです。

no.	作家名	作品名	制作年	素材	サイズ
1	松本寛庸	クレムリン	2012	色鉛筆、水性ペン、画用紙	39.2x54.2cm
2	松本寛庸	サグラダファミリア	2012	色鉛筆、水性ペン、画用紙	39.2x54.2 cm
3	松本寛庸	パロック建築	2012	色鉛筆、水性ペン、画用紙	39.2x54.2cm
4	naonao's 森川尚美	naomi-chan(ナオミちゃん)	2006	木綿、アクリル綿	10点組 各 230.0x50.0x25.0 cm
5	naonao's 森川尚美	naomi-chan [no.11]	2006	木綿、アクリル綿	230.0x50.0x25.0 cm
6	ミヤザキケンスケ	熊本のカオ	2008	アクリル絵具、キャンバス	2点組 各 130.0x450.0cm
7	トーチカ	PIKA PIKA IN KUMAMOTO	2011	DVD	サイズ可変
8	石田澄男	萌やし	2007	油彩、キャンバス	45.5x53.0 cm
9	石田澄男	春	2007	油彩、キャンバス	45.5x53.0 cm
10	石田澄男	喜び	2007	油彩、キャンバス	45.5x53.0 cm
11	石田澄男	朝の収穫	2007	油彩、キャンバス	45.5x53.0 cm
12	石田澄男	息吹	2007	油彩、キャンバス	45.5x53.0 cm
13	今田淳子	小鈴の夢 シリーズ	2003— 2008	ポリエステルフォーム、テラコッタ、木綿糸、FRP	12点組 インスタレーション
14	藤本高廣	赤いシッポのドラゴン	2010	鉄切りノコギリの部品、金切りバサミ、ランプ、コード	38.0x72.0x15.0cm
15	竹田康宏	潮騒の神話	2006	鉄、アクリルウレタン塗料	226.5x135.5x170.0 cm